



## 申6号「駅体制の見直しについて」(友部駅・植田駅・小木津駅) 団体交渉実施! ~その①~

### ① 駅体制の見直しの目的を明らかにし、安全第一で働きやすい職場環境を構築すること。

確認事項 安全・サービスレベルを維持・向上する施策とする。

組合: 施策の目的を明らかにすること。

会社: 効率的な業務執行体制を構築し、生産性の向上を図ることから駅体制の見直しを行う。

組合: 昨年9月に友部駅は輸送業務の見直しを行い、今施策で更に体制の見直しが行われる。朝晩の体制が以前に比べて少ない人数で対応せざるを得ない。安全レベルの維持・向上を図ること。

会社: 初動は友部駅社員が対応することとなるが、異常時は箇所総体で対応する。また補助制御盤等の運転取り扱いについて、業務に集中できる環境は構築する。また補助制御盤の訓練は定期的に今後行う考えである。

組合: お客さまサポートコールシステム導入により、お客さま対応が人から機械に置き換わるため、今までに比べてお客さまをお待たせしてしまうことが予想される。サービスレベルの維持・向上を図ること。

会社: オペレーターが対応することとなるが、お待たせする認識はない。ご利用状況を見ながらサービスレベルの維持・向上を図っていく考えである。

### ② 水戸統括センター(友部駅)にお客さまサポートコールシステムを導入することに伴い、友部駅の変更となる業務や業務執行体制を明らかにすること。

組合: 友部駅の業務執行体制と変更となる業務、サポートコールシステム稼働時間帯を明らかにすること。

会社: 友部駅は当務1徹、営業1徹1日勤の体制に変更となる。お客さまサポートコールシステム導入によって変更となる業務は基本的にない。サポートコールシステム稼働時間帯は早朝及び夜間の営業社員が休憩時間帯に行うこととなる。

組合: 早朝夜間は営業社員が1徹体制のため、列車遅延時に水戸線との接続確認や放送案内、旅客案内等業務が輻輳し、負担が増えることが予想される。営業社員に負担が掛からないように対策を講じること。

会社: 昨年9月の駅体制見直しで信号業務が水戸指令に集約されたが順調に推移している。接続確認は指令から連絡することが多く、コミュニケーションが図れている。当務もいることから、箇所総体で対応していく。

### ③ 植田駅にお客さまサポートコールシステム導入及び小木津駅にお客さまサポートコールシステム運用拡大を行う理由を明らかにすること。また、業務執行体制について明らかにすること。

組合: 植田駅にお客さまサポートコールシステム導入及び小木津駅にお客さまサポートコールシステム運用拡大を行う理由を明らかにすること。また、業務執行体制やお客さまサポートコールシステム稼働時間帯を明らかにすること。

会社: お客さまのご利用状況等を総合的に勘案し、導入や運用拡大を行うこととした。業務執行体制はどちらの駅も現行の1徹体制から1日勤体制にするとJR東日本ステーション水戸支店より聞いている。お客さまサポートコールシステム稼働時間帯は始発から社員が出勤するまでの時間及び、日中の休憩時間、また社員が退勤後の時間で稼働することとなる。

# 安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場をつくり出そう!